

「平成 29 年度 中部支部活動報告会、安全セミナー及び懇親会」開催報告



平成 29 年 3 月 3 日、「名古屋・ウイנקあいち」において、操縦士協会中部支部の平成 29 年度活動報告会が開催され、29 年度活動報告と委員交代、30 年度の活動計画が発表されました。引き続き、安全セミナー、懇親会が開催され多くの参加者で賑わいました。

以下、その模様を報告致します。

「中部支部活動報告会」 13:30 ～

* 議事内容については、支部役員会において、既に承認されたものです。



協会本部 井上 副会長



活動報告 具志 支部長

1 協会本部副会長 井上氏よりご挨拶

感謝の意「支部の日頃の活動にご協力をありがとうございます」

近況報告

- (1) 設立以来昨年で60年となり過去を振り返り記念事業を行う予定。
パイロット誌の創刊号からすべてをデジタル化。アップロード方法を思案中。
JAPA 紹介プロモーションビデオを製作中。
- (2) 公益団体になって内閣府からもアドバイスを受けて代議員制度を採用する事になった。
プロからアマチュアまで含まれているのは操縦士協会のみなので、何かしらのヒントがあるはずですから、是非ともセミナーの参加をお願い致します。

2 平成 29 年度の活動報告

- (1) 昨年7月から担当の具志支部長より挨拶。
支部委員会、管制交流会、支部長会議など活動実績について報告。
今年度の支部長会議は沖縄にて実施された。
- (2) 支部長より会計報告があり、収支について適切に処理されていることの確認を、
監査役 松尾副支部長によりご報告。
- (3) 支部長より平成 30 年度の役員および代議員の紹介。

支部長	具志 賢治	(名古屋市消防局)
副支部長	柴原 悠	(新日本航空 (株))
副支部長	松尾 学	(中日本航空 (株))
委員	青木 富雄	((株) セコ・インターナショナル)
委員	大野 功喜	(中日本航空 (株))
委員	甲斐崎 大樹	(名古屋市消防局)
委員	喜久生 隆太	(ジェットスタージャパン (株))
委員	中橋 佳彦	(名古屋飛行クラブ)
委員	西小路 友康	(三菱重工業 (株))
委員	村田 良夫	(川崎重工業 (株))
委員	吉田 善彦	(名古屋空港自家用機協議会)

支部担当理事	林 晃一 (6月交代)	(川崎重工業 (株))
	野口義博 (6月より)	(自家用)

代議員 (兼務)	甲斐崎 大樹	(名古屋市消防局)
代議員	鈴木 乃武典	(愛知県警察航空隊)

(4) 平成 30 年度の活動予定として
管制交流会(小牧管制塔訪問も計画中)が 9 月、各務原航空史跡研修も検討中。

(5) 質疑応答
特になし

「安全セミナー」 14:30 - 16:30

「下層悪天予想図の利用 離着陸性能と気象」について

JAPA 航空気象委員会 山本秀生氏から、小型機向けの新しいシステム「下層悪天予想図」の紹介とその活用法についてのレクチャーがあり、参加者は興味深く聴き入っていました。



講師 山本秀生 氏



航空機事故の約 17% が気象に関する事故であり、気象によるものは死亡事故にも繋がりがやすいことは FAA でも叫ばれている。

高高度の天気図はエアライン向けのものが多いことから小型機向けにも必要ということを訴えた結果、下層悪天予想図（15000 フィートまで対応）が発表されるようになった。

精度に不安があるため9時間先までしか予報されないが、TAF で TS が出ていなくても下層悪天では予想されていることもあるため、積極的に利用してほしい。
エアラインの運航管理部門でも活用している。

今では気象庁のホームページからも閲覧可能である。

* 注意事項は表記がフライトレベルであり、フィールドエレベーションは加味されていない。

* 調布の事故に触れながら離着陸性能について講演が引き続き行われました。

性能の把握はパイロットに責任があることを再度認識していただきたい。

「ヒューマンファクターとリスクマネジメント」

JAPA エアライン委員会 慶田竜也氏の講演で、軽妙なトークにより「人の特性や行動」について、再認識させられる事が多々ありました。



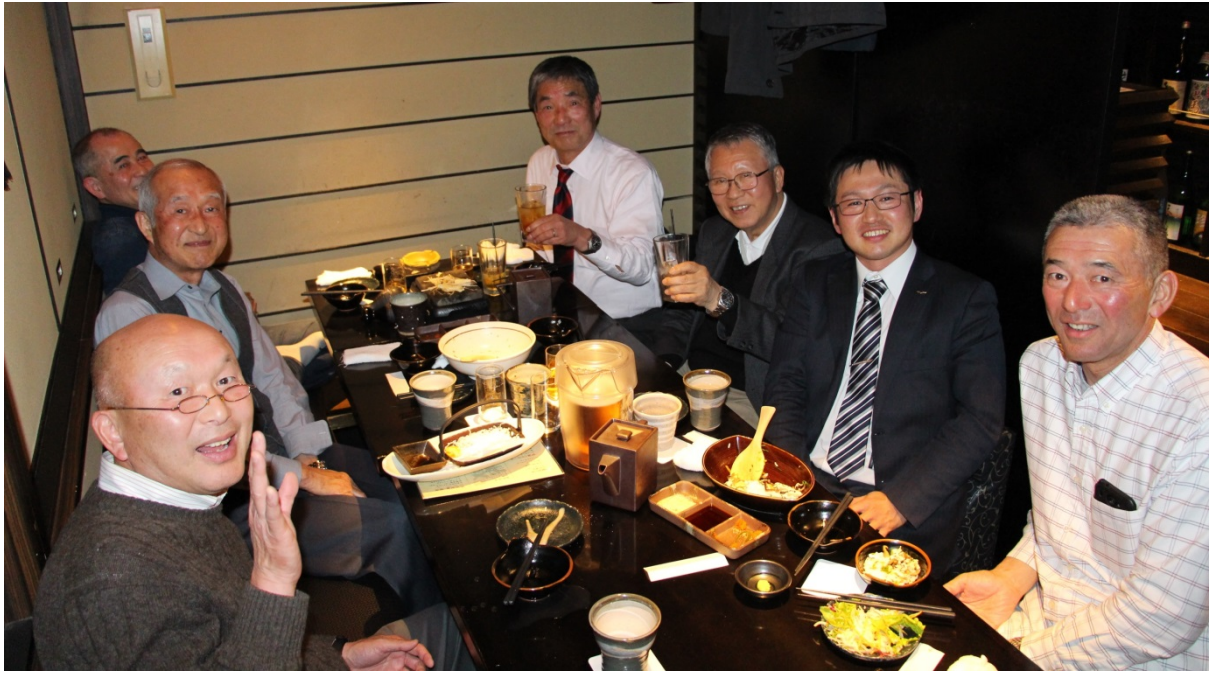
講師 慶田竜也氏



人間の視野の限界や脳の情報処理メカニズムなどを踏まえながら記憶、判断、行動、意識について SHELL モデルを使いながら安全とは何か、効果的なリスクマネジメントはどうすればいいのかを簡単な能力テストを用いながらご説明していただき、優れたパイロットとは何かを講演していただきました。

セミナー終了後、恒例の懇親会が開かれて、酒も入り話も弾みました。





皆さん、安全飛行で行きましょう！